



Title	日米関係（沖縄返還）14(44・5・23田中大使・スナイダー日本部長会談   外務省外交史料館レファレンス番号：H260160)
Author(s)	-
Citation	平成26年度外交記録公開(1)   公開日：平成26年7月24日   外務省外交史料館管理番号：2014-2730   CD・DVD番号：H26-003
Issue Date	
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43789</a>
Rights	外務省外交史料館所蔵資料

44  
5.23  
田中大使・スナイダ  
日本部長公談

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

大政外外官  
務務房  
次次  
臣官官審審長  
儀審文会管給  
総人電厚計  
国資長領移長  
参領旅移  
ア参北東經  
長中西經  
米参北北保  
長南南審  
隊参西洋  
長西長  
近ア長經  
参審近ア  
次總經国万  
長参實統  
参政技二  
国一理  
参条協規  
参政經科  
長軍社專  
参道内外  
長情長文長  
一

総番号(TA) 22203  
 69年 5月23日 11時40分 米 同 菅  
 69年 5月26日 11時05分 本 省 着 精 長  
 外務大臣殿 下田 大使 臨時代理大使 総領事 代理

オキナワ返かん問題

第1592号 特秘 至急

23日タナカ大使は大統領府にBNEIDERを往訪したが、会談の内容は次のとおりである。

1. 当初ヴィエトナム交渉を話題としたが、先方は北越の態度が前進してきたことは事実であり、また相互撤兵の問題にも暗もくのりよう解とする等の方法もあろうした。北越は第三国を通じて情報を流す等のこともあるが近い将来交渉による解決を真に意図していると思われる。観測が分かれていると述べていた。
2. 次いでオキナワ問題に入り、当方より外務大臣来訪の際、有意識かつ実質的討議が行われ、その後の交渉を通じて11月総理訪米による最終的妥結を望むと述べたのに対し、先方は大統領も対日関係を重要視しており、この問題は解決されなければならないと考えている。たが日本の世論の問題はよく知っているが、米政府としてもオキナワ返かんはびみような問題であるため、国内に反ばつが起らない

外務省

極秘

特

注意

- 1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
- 2. 本電の主管変更その他については検閲班に連絡ありたい。

電信写

よう注意深くHANDLEしなければならぬということを知りたいと述べた。

次いで先方はオキナワ返かんに関連する極東の安全保障上の問題点はトウゴウ局長に述べた通りであるが、自由アジア諸国の防衛の外、中共のみならず、ソ連に対してもよく止力の問題がある。ソ連は北鮮の冒険的行動をよく止するであろうが、米側のよく止力が低下する場合これにびみよるような影響を生ずると述べ、その後関連する諸問題につき意見交換を行なった。

3. 先方よりB-52につきベトナム爆撃が絶対に必要かということとなれば、止めてもなんとかやれるといわざるを得ないであろう。然し、ヴィエトナム爆撃は効果をあげているので、これを止めればそれだけ米側の能力が低下すると述べ、当方より比島基地につき質問したのに対し、基地についての政治的問題は日本より処理し易いが、比島政府は時としてUNREASONABLEの要求をもち出し、くるので11月の選挙終了まで待つ外ないと述べた。当方よりCLARK FIELDは現在B-52の作戦用に使えないと聞いているが、全くの私見として安保条約の事前協議に関連し最も問題となるのは空軍基地の使用であるが、将来の構想として空軍基地に関する限り台湾を境として北東アジアの日本及びオキナワの基地と南東アジア

外務省

極秘

